

岩津ねぎだより

平成30年9月18日

岩津ねぎ産地協議会生産支援チーム

今年の岩津ねぎは、夏場の高温少雨の影響から生育が遅れていましたが、9月に入り、気温は、平年並となり、ねぎの生育は順調に回復していますが、平年に比べ10日程度遅れています。また、台風や前線の影響で、曇天や雨天の日が多く土入れや土寄せ作業が実施できていない農家も見られます。

【土寄せ作業の実施】

曇天、降雨の日が続いており、土が固まった状態が長く続くと、根が酸欠状態となり、ねぎの生育が停滞します。左の写真のように株元が伸びています、早急に、M字土寄せを実施しましょう。目安としては、襟首が隠れない程度に土を寄せます。

土寄せ前には、必ず株元の根の伸長状況を確認し、新しい根を切らないように注意して実施して下さい。



土寄せ実施前の状況



M字土寄せ実施状況

【注意点】

土寄せ作業は、天候に十分注意し晴天が続き土が乾いた状態で必ず実施して下さい。

今後の台風や局地的な豪雨に備えて、畝間はできるだけ深くなるように、M字による土寄せ作業を実施しましょう。



畝間はやや深く

【追肥の実施】

気温が平年並となり、ねぎの生育がやや旺盛になってきました。ほ場によってはやや葉色が薄いほ場も見られますので、土寄せ作業と同時に追肥を施用して下さい。施用量や時期は下表を参考に、しっかりと基準量を施用しましょう。

本田 10a あたりの施肥量

資材名	施用時期	施用量
やさいめいじん	9月中旬～9月下旬	90kg
燐硝安加里S604	10月上旬～中旬	60kg
またはアラジン403	10月下旬～11月上旬	60kg

【黒斑病・軟腐病が発生しています。ほ場を確認しましょう。】

①黒斑病

かびによる病害で、葉に紡錘形の斑点を生じ、病斑上にすす状のかびを生じ、黒褐色の同心円輪紋状となります。発生は、気温が24～27℃で降雨が続くと発病します。また、肥料切れ、根傷みにより発生が助長されます。



②軟腐病

細菌による病害で、菌は土寄せ時などに生ずる傷口などから侵入し、葉が黄化し、株元が腐り簡単に引き抜け、腐敗臭がします。

発生は、初秋の高温時に土壌湿度が高いと発病しやすく、長雨、台風などによる集中豪雨などで激発します。

排水溝を設置し、排水対策に努めましょう。



上の写真は黒斑病の病斑です。下の写真は土寄せ後の根傷みで葉先が傷み、黒斑病が発生したほ場の様子です。発病が少ないうちに、発病葉を取り除いてほ場の外に持ち出し処分すると効果的です。

防除薬剤

	農薬名	使用倍率	使用回数	使用時期・使用方法
黒斑病	テーク水和剤	600倍	3回以内	収穫14日前まで・散布
	オンリーワンフロアブル	1,000倍	3回以内	収穫14日前まで・散布
	アミスター20フロアブル	2,000倍	4回以内	収穫3日前まで・散布
軟腐病	オリゼメート粒剤	6kg/10a	2回以内	収穫30日前まで・株元散布
	ヨネポン水和剤	500倍	4回以内	収穫7日前まで・散布
	Zボルドー(水和剤)	500倍	—	収穫前日

【害虫の被害に備えよう】

県南部地方では、シロイチモジヨトウが多く発生しています。朝来市では、今のところ大きな被害は見られませんが、今後、注意が必要です。

ダントツ粒剤を株元に、10a当り3～6kg散布して予防に努めましょう。



＜問合せ先＞

和田山営農生活センター : 672-4800
 朝来営農生活センター : 670-4341
 山東営農生活センター : 670-7744
 朝来農業改良普及センター : 672-6886